

## 平成29年8月定例教育委員会会議録

1. 開催日時 平成29年8月24日(木) 13時30分～17時00分
2. 開催場所 日野町役場202会議室
3. 出席委員 今宿綾子教育長、石岡孝浩教育長職務代理者、  
西村吉弘委員、山田めぐみ委員、高橋政宏委員
4. 出席事務局員  
 教育次長 : 高橋 正一  
 学校教育課 : 参事 野瀬 薫 参事 正木 博之  
 生涯学習課 : 課長 日永 伊久男  
 図書館 : 館長 高浪 郁子  
 子ども支援課 : 課長 宇田 達夫

今宿教育長	<p>ただ今から、日野町教育委員会定例会を開会いたします。</p> <p>立秋を過ぎ、お盆を過ぎましたが、まだまだ暑い日が続いております。台風5号のあとは少し暑さの勢いも収まったかと思いましたが、この暑さはちょっとこたえるところがございますが、委員の皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>いよいよ新学期が始まってまいります。中学校は来週の8月29日から、小学校は9月1日からが新学期のスタートとなるわけですが、中学校におきましては、明日が3年生の実力テストの日でございますので、実質、明日から始まるといったところです。</p> <p>残暑の中、新学期が始まりますので、生活のリズムを戻せない子がいたり、また新しい学期に不安感を覚えたり、不登校の様子が出てきたりします。9月は運動会など学校の大きな行事も控えておりますが、気をつけて見ていきたいと思っております。</p> <p>本日の会議の進め方ですが、議事日程を一部変更して、日程5の議事について先にご協議をいただき、その議事の終了後、前回委員会の議事録の報告、経過報告をご協議いただくことで進めさせていただきたいと考えております。このように会議を進めてよろしいか。おはかりします。</p> <p>⇒ (異議なし)</p>
今宿教育長	<p>ご異議が無いようですので、そのように進めさせていただきます。</p> <p>それでは、日程5の議事に入ります。</p> <p>「議第1号 平成30年度使用小・中学校特別支援学級教科用図書および小学校(特別の教科 道徳)教科用図書の採択について」提案させていただきます。それでは事務局から提案説明をお願いします。</p>
野瀬参事	(提案説明)

今宿教育長	<p>以上、提案がございましたが、教科用図書をご覧いただき、協議会で出された意見等についても紹介をさせていただきましたが、委員の皆さま方でご質問・ご意見がございましたら、お出しいただきたいと思います。</p>
高橋委員	<p>地図帳3冊ご提案いただき、『読んで、見て、楽しむ世界地図帳』が一番適しているという判断をされたようですね。私もそう思います。</p> <p>私の専門は社会ではありませんけれど、昔から地図と国旗が掲載されているわけですが、当然のことながら、「地球」というものを意識する必要があるかと思うのです。私が目についたのは、一番後ろに付録みたいなものなのでしょうが、正十二面体で地球儀がつくれて、どこにどういう国があるとか、そういうことをあわせて立体的に可視化できるのではないかと思います。これは非常に良いのではないかと思います。</p>
西村委員	<p>今の説明を聞かせていただきまして、そしてまた中身を拝見いたしまして、納得をいたしました。これを採択するという点について、同意いたします。</p>
今宿教育長	<p>小学校では日本地図を扱っているので、小学校と中学校の継続という点についても今後の指導の課題であるという意見も出ておりました。活用する時にはそういう点にも気をつけていただくということでお願いしました。</p> <p>それでは、ほかにご意見がないようですので、本町におきましては、滋賀県教科用図書第3採択地区協議会の選定に基づきまして、事務局より提案がありました学研の『読んで、見て、楽しむ世界地図』を採択することとさせていただきます。よろしいでしょうか。</p> <p>⇒（異議なし）</p>
今宿教育長	<p>異議なしということで、平成30年 教科用図書の地図について提案どおり採択させていただきます。</p>
今宿教育長	<p>つづきまして、特別支援学級中学1年生使用英語教科書について提案をお願いします。</p>
野瀬参事	<p>（提案説明：中学校1年生使用英語教科書）</p>
今宿教育長	<p>このことにつきましても活発な意見をいただき、第3採択地区協議会においては『ジュニアコロンブス21Book1』を選定させていただきました。ご質問・ご意見がございましたら、お出しいただきたいと思います。</p>
高橋委員	<p>3点ご説明いただきまして、ありがとうございました。中学校・高校・</p>

	<p>大学へ行きますしても、英語などの語学では「ユニット」という単語が出てきます。今、『ジュニアコロンブス21Book1』には、「ユニット」という表現がなされていますけれども、ほかのところはそれが見当たらなかったのです。「単元」みたいな表現だと思いますが、「ユニット」というような概念を小学生にも少しでも馴染んでもらうことに効果があるのではないかと思います。</p>
山田委員	<p>英語の教科書ということで、英語の読み方がカタカナ表示されていたり、平仮名表示されていないのが私も良いと思うのです。ついその表示を見てしまって、そのとおりに言うと、ネイティブな発音と違ったように言ってしまったりする場合もあるので、それが無いこちらの方が良いと思います。</p>
西村委員	<p>現場で使っていただく時に一番使いやすいというか、きちんと使えるという意味では、選定いただいた『ジュニアコロンブス21Book1』が一番優れている、観点別評価でもそれぞれの項目がほとんどA評価ということからいきますと、適切な選定だと思います。</p>
今宿教育長	<p>特にこの教科書につきましては、指導書とかCDも付いているということなので、そういったことも含めて楽しく使えるのではないかというご意見がありました。</p> <p>それでは、本町におきまして、特別支援学級用中学1年生の英語につきまして、『ジュニアコロンブス21Book1』を選定いただくということで、よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
今宿教育長	<p>それでは、続いて提案をお願いします。</p>
野瀬参事	<p>(提案説明：小学校特別支援学級 道徳)</p>
今宿教育長	<p>当初、上学年・下学年で1冊ずつ選定しようということでございましたが、結果として協議会の方で選定いたしましたのは、学年を通して知的障がいのある児童用、加えて自閉・情緒障害をあわせもつ児童用の図書として、それぞれ『イソップ50話』、それから『絵でわかる生活図鑑 IV』を1冊ずつ選定させていただいたということでございます。</p> <p>これについては、2時間ほどかけて内容も本も、みんなでしっかり読み協議をし、最終このような結論になりました。</p>
野瀬参事	<p>補足いたしますと、『みんなのためのルールブック』とか『絵でわかる生活図鑑 IV』は道徳科の教科書といえるのかというご意見等もありませんでした。ただし、調査研究部からは、気持ちから入るとなかなか理解を得られにく</p>

<p>高橋委員</p>	<p>い児童は、ルールから入って道徳性に迫っていくことが必要ではないかということを考えていただきましたので、必要な指導であるということで選定いただきました。</p> <p>滋賀県の学校教育の指針とか人権教育推進プランとか、あるいは国の第3次答申とか、そういうものと、あるいは今、文部科学省でも言っている「道徳性を高める」という意味で特別の教科「道徳」という、その根幹にかかわるところと、『お付き合いの基本』というのは、どう整合性があるのかなと思います。</p> <p>2～3分で見てもノは言えないと思いますけれども、イソップのお話ですと、例えば「北風と太陽」は、私たちの世代にも最初にあったような気がします。昔からある有名な教材ですから、指導者がかみ砕いて、子どもと一緒に学んでいくには非常にふさわしいのではないかと思います。これこそ今、国が言っている道徳性の向上とか、そういうところとマッチしているのではないかと思います。</p> <p>直観みたいところで言って申し訳ないのですが、それに対して「お付き合い」というのをどういう概念で見ておられるのか、わかるところで教えてもらえたらありがたいと思います。</p>
<p>野瀬参事</p>	<p>今おっしゃっていただいたとおり、『イソップ50話』は、教師が読み込んで、そのお話の内容が、お手元にある学習指導要領のどの項目に当てはまるかということをしかりと把握したうえで、指導しなければならないということで、教師の事前の学習がより必要になってまいります。</p> <p>多くの児童が使用する教科書では、その項目が明確に狙いに迫りやすいように編集されておりますので、この『イソップ50話』を本当に読み込み、このお話の指導すべき価値を1つに絞る必要があるのか、2つ3つに重ねてもいいのか、そこは難しいところがありますけど、そういう形でご指導いただくことになるかと思います。</p> <p>また、ルールの方につきましては、例えばこの項目でいいますと、礼儀、気持ちのよいあいさつとか、ソーシャルスキルを必要とするお子さまとか、よりコミュニケーション力をつけていかなければならないお子さまが、知的学級にもいらっしゃると思いますので、そういうお子さまが良いことと悪いことの区別をし、良いと思うことを進んで行うこと等の項目でご指導いただけるであろうというふうに考えます。</p> <p>従いまして、ルールを教えることが目的というわけではなく、知的障がいのあるお子さまがこの学習指導要領に則って、主として自分自身に関すること、良いことと悪いことを区別するとか、そういう点でご指導いただくのに適切ではないかというふうなことでご推薦いただいたのだらうと思います。協議会の中ではそこまでの話はなかったのですが、私が聞かせていただいている限り、そういうふうに感じさせていただいております。</p>

<p>今宿教育長</p>	<p>特にコミュニケーションの力、自分の思いをしっかりと出し、また世の中の決まり事を守る力を子どもたちがわかりやすく学べる教材として、ルールブックを選んでこられたのですけれども、翻訳本の内容の中には、日本の社会の習慣とそぐわないような内容もいくつかありました。</p> <p>特別支援学級の教科用図書につきましては、一般図書の多くの中から選んでいます。このあと小学校の道徳も選定採択していきますが、一般図書で22の道徳的価値がすべて網羅されていることは難しいと思われませんが、子どもたちは、多くこういう場面に会うであろうという価値や、あり方や心の持ちようについて、学習していける図書であるかどうかという観点で議論をしていただいています。</p>
<p>西村委員</p>	<p>『イソップ50話』というのは、読み聞かせですね。その中から教訓的なところをいろいろ学ばせるということが目的なわけですから、運用の中で徳目と結び付けて、それぞれの子どもに学ばせるということですね。</p> <p>もう1つの『お付き合いの基本』というのは、人と人との交わりの中で特に注意すること、例えば失敗したら謝るとか、そういうような基本的なことを教えたいということが中心ではないかと思います。</p> <p>私は真珠湾攻撃の1か月後に生まれた人間でございますので、小学校へ入ったのが昭和23年で、ずっと道徳の「ど」の字も知らずにとというか、そういうような授業を受けずにまいりましたので、そもそもどのような授業をされているのか全く知りませんでした。私が教育委員になりまして学校現場へ寄せていただいて、授業参観の中で初めて道徳の時間を見せていただきました。それが初めてです。「道徳」が授業の中に入ったのは昭和33年と聞いておりますので、私にとっては、ちょうど空白期間に当たるわけです。</p> <p>それはそうとしまして、今回の採択について、日常の生活の中で、子どもたちの生活習慣としてきちんとやってほしいなと思うことを文字できちんと書かれているということについて、これは必要だと思いましたので、今の提案については賛成をいたします。</p> <p>もう1つは、現物を拝見して、気がついたことですが、ちょっと気になるのは、よく中身が吟味されているかどうかということです。外国ものの翻訳とのことですが、その中のひとつに「口をふさいで咳やくしゃみをしましょう。」というのがあるわけですが、完全に口をふさいでくしゃみや咳をしますと、耳とのつながりで鼓膜が破れるわけです。これは私が子どもの頃にきちんとと言われて、学校でもそのように習ってきたのに、逆のことが書いてあるということは、たまたま私の孫がこのお盆に帰ってきた時に、くしゃみをするときに口を手で押さえるわけですよ。なんでこんなことをするのかと思ったら、正解はここにありました。ここに書かれていることが、いろいろな科学的な根拠があつてきちんと検討されているのかどうか。もちろん、くしゃみをすれば飛沫が飛びますので、口から数センチ離</p>

	<p>して手でカバーするとか、肘を添えるとかして、それなりに飛ばないようにするのは必要ですが、ピタッと口をふさいでくしゃみをしたら絶対耳をやられると私は思います。だから、よく吟味された中身で、誤解のないように、矛盾する部分があれば、整合を図るというのか、その辺をきっちりしていただきたいと思いました。</p>
野瀬参事	<p>確かにそれはアメリカ的な部分であったり、日本の生活習慣にちょっとそぐわないところまで指摘されておりました。</p>
今宿教育長	<p>ベストセラーになっているみたいなんですけどね。</p>
高橋委員	<p>『お付き合いの基本』は、滋賀県の場合、学校教育指標、人権基本教育の推進、また人権教育推進プランとか出ていますね。そういう、大切にしなければならない「人権教育」という枠組みの中のベースになる話がこれかなと思って、文部科学省などが言っている「道徳」の話とはちょっと違うのではないのかという気はするのですが、子どもたちの状態等鑑みないといけませんから、理屈だけではいけないと思いますけれど、私は基本的には、そういう分野のベースになるというふうに思っています。</p>
野瀬参事	<p>おっしゃるとおりかと思います。それこそ、これから採択いただきます道徳科の教科書につきましては、文部科学省の学習指導要領に則ったものになっているかと思います。多くの児童は、現学級でそれを学ぶ。もしくは、学年を下げたものを学び、しっかりと今後学習していくことになろうかと思います。ただ、それに適さないというか、発達課題でそれができにくいお子さまに対して選んでいただいている本ですので、特別な配慮が必要なお子さま用ということでお考えいただきまして、その前提のもとで気持ちのよいあいさつができるようになるとか、友だちと互いに仲良くし助け合うとか、身近な人に温かい心で接するとか、そういう項目をその中で学んでいっていただくという形になってくるのかと考えます。</p> <p>おっしゃいますとおり、ちょっと趣の異なる教科書であることは確かだと思えます。</p>
石岡委員	<p>高橋委員さんがおっしゃっていること、私も協議会の会議の時に同じように思っていて、このあとに出てくる道徳の教科用図書で、ほぼこれらの内容は一緒のような内容がすべてカバーされております。想定としてはされてなかったのですが、道徳の分野というのは本当に、上学年から低学年まで、あれ1冊ですべて網羅されていますし、こちらの学年のものを少し落としてすればいいのではないかという、そういう意見も言いましたし、そういう考え方はまだ前提にされていませんけれど、これからはそういう考え方もいいのではないかと思います。</p> <p>高橋委員が言われましたように、それは確かに道徳の分野ではございま</p>

野瀬参事	<p>せん。保護者に選択権が与えられています。教科用図書を買って、これも買って、選択でどちらも買ってくださという条件があります。</p> <p>どちらももらえるわけではなくて、ぶっちゃけた話をしますと、そちらにある一般図書は比較的値段の高いもので、これから採択いただく教科書というのは比較的リーズナブルな値段になっていますので、一般図書をもろう、でも自分のお金で教科用図書を買うという選択をされる保護者の方も実際にはいらっしゃるということをおっしゃってくださっているのだと思います。</p>
今宿教育長	<p>内容を見て、選択することができます。無償のものは1冊だけですけれど、有償で両方持たれることがあるという話も、聞かせていただいています。</p> <p>保護者さんの中に支援学級の子どもの保護者さんがおられて、我が子に持たせるには抵抗があるというようなご意見もいただきました。</p> <p>3歳の、4歳のという表現は、内容的には素晴らしい中身であっても、やはりそのタイトルの表現というのは、心情的に受け入れられないというご意見も多く、当協議会としましてはその2冊で選定させていただきました。</p>
高橋委員	<p>道徳は以前からこういう形式だったのですか。</p>
今宿教育長	<p>教科用図書は今年度からです。来年のものからです。</p>
野瀬参事	<p>お手元の資料の一番最後のページに一覧表が載っておりますが、一番最後のページが中学校用の一般図書です。その前のページが小学校用の一般図書になっておりまして、それが保護者様の選択によりまして教科書として学ぶことが可能になります。ただし、日野町におきましては、一般図書を選択されているご家庭はいらっしゃいません。</p>
高橋委員	<p>親さんの考え方によって、2種類手元に置かれるということも可能性があるわけですね。</p>
野瀬参事	<p>それがよいことであるかどうかというのはおきまして、教科用図書は主たる教材ですので、それで勉強するという事になっています。ただし、副読本として違うものを代用するという事も可能ですので、そういうお考えでお使いになっていらっしゃるということも可能かと思えます。</p>
今宿教育長	<p>あくまで1冊です。</p> <p>一般図書を学級文庫に備えておられるところもあると聞かせていただいております。両方使いながらということで。特別支援学級用の図書という</p>

山田委員	<p>のは、特別な支援が必要な子どもさんに対して配慮した図書として選択しているということです。</p> <p>    ルールの本の4冊の中で比べてだったら、私も『お付き合いの基本』が一番いいと思います。低学年も使用するのでしたら、平仮名で書いてある表記が結構多いので、わかりやすいと思います。</p>
今宿教育長	<p>    いろいろと、ご意見をいただきましたので挙手をいただいてよろしいでしょうか。</p> <p>    それでは、知的障がいのある子どもたちに『イソップ50話』、知的障がいに加えて情緒障害を合わせ持つ児童を対象としたものとして、『絵でわかる生活図鑑 お付き合いの基本』ということで、この2冊を選定していただきました。この選定で承認いただける方は挙手をお願いしたいと思います。</p> <p>    『全員挙手』</p>
今宿教育長	<p>    ありがとうございます。</p> <p>    全員ご承認いただきましたので、採択させていただきます。</p> <p>    続きまして、小学校道徳についてお願いします。</p>
野瀬参事	<p>    (提案説明：小学校道徳)</p>
高橋委員	<p>    何年か前から道徳については、総則で規定されていて、そしてこの小冊子で自分自身に関することとか、ずっとあるわけですが、平たい言葉で言うと、やはり子どもたちが日ごろ思っている価値観・価値、それをやはりより高い価値を持った、それはビデオでも映画でも人のお話でもなんでもいいのですが、価値葛藤をさせることによって、子どものそういうものを上げていく、これが道徳性の向上だと思うのです。</p> <p>    ですから、そういう点で言うと、今参事さんがおっしゃっているように、子どもたちが、この教材によって今まで自分が思っていた価値観を少しでも高める、そういうような図書が一番ふさわしいのではないかと考えています。</p> <p>    日本文教出版の『生きる力』、そういう分野の子どもさんがその場面で価値葛藤される、そういうのが意図的に仕組まれていると言いましょか、教える教師はもちろん知っていなければいけないわけですけど、そういう教材が一番いいのではないかと私は思います。</p>
西村委員	<p>    個々の中身というよりも、先ほど私が申しましたように、道徳の時間というのは受けたことがないものでございますから、私の印象としては、「道徳」は、やはり戦前の「修身」の復活の路線、戦後の民主化の路線、この</p>



2つのイデオロギーのせめぎ合いがずっと続いてきたなど、私の頭の中でそういう固定観念がございます。

そういうこともありますので、今回私は、一から勉強しないといけないと思いました。そこで先入観と言いますか、いろいろなことが頭に入っているものですから、ちょっと整理しようと思ひまして、先ず甲賀市の甲南図書交流館で展示されている教科書を見に行きました。そして、さらに6月22日でしたけれども、三重県の総合教育センターで教科書検定の結果公開事業というものが文部科学省の主催で行われましたので、開催の初日でもございましたが、見に行ってきました。

当日は、「一般市民」ということで午前10時頃会場に入ったのですが、私以外におられたのは、三重テレビのカメラマンとアナウンサーの方だけでした。展示は、教科書の最初の申請の段階から、企画書、そしてそれぞれの中で編集された、そしてそれを調査されて、修正意見が示され、それをもとに補正され、最終的に仕上がるまで、道徳の教科書について1時間半ほど拝見してきました。

私1人かなと思つたら、途中で40分ほどして1人来られたので、ホッとしましたが、こうして教科書がつくられていく中で特に思ひましたのは、一つの教材があるとすれば、それが学習指導要領のどの項目に合致しているのか、それが明確でないという指摘が結構あったわけですね。だから、教科書をつくる側の人がそれを教材に取り上げても、それが学習指導要領のどこにどう結びついているのかということ、厳しく教科書の調査官は問うておられるなということが分かりました。ということであるならば、文科省の学習指導要領そのものの中身を、我々一般市民としてもよく吟味していかないといけないなという思ひがいたしました。

それともう1つは、これも余計なことかも知れませんが、大人の現実の世界と、我々が言う道徳、学んでほしい道徳との乖離がいっぱいありまして、大きな乖離もいっぱいあるわけです。そういう意味ではいろいろな疑問が湧くのですけれども、一昨年出されました北野武さんの『新しい道徳』を読んで私は感心したのですよ。これが、我々の常識だなど。こういうものを大人として学びながら、現実を見つめていって、子どもにちゃんと育ててほしいという思ひを強くしたような次第でございます。

そういうことで、私は今回こうしてこの席に座らせていただいて、いろいろご報告をお聞きしました。さまざまなことを思ひつつ、最終的にはこの審議の中では、現場の先生が子どもたちにこうして学んでほしいなという現実の気持ちを重視して決めていただいたということでもございますので、私は現場の方のご意見で決まったのだなということ、これに同意したいと思います。以上、私の意見でございます。

山田委員

この写真の素晴らしさにびっくりして、見開きで始まっているというのがいいと思います。野瀬参事もおっしゃったように、ページの途中から始まったら、左側を読んでいるのに右側を見ている子がいたりしますので、

石岡委員	<p>見開きで始まっているのは大事なことかなと思います。</p> <p>ノートが付いているのがちょっとどうかと思ったのですが、このノートを使うことに限らず、先生のお力でプリントを作成していただき、そのプリントで学習するなり、先生が考えられたように授業を進めていくというふうに工夫をしていかれたらいいと思います。このノートにとらわれずに授業を進めていってほしいなと思います。</p> <p>感想を言わせてもらいます。この道徳の教科書の選定については、大変わかりやすく説明していただいたと思います。あと全体に聞いていて、教師の方が教えやすいとか教えにくいとか、我々に説明していただくのも、主観で説明していただいたり客観で、今言っておられることは客観的に見ておられるなど、主観と客観のせめぎ合いなんですね。結局、最終は好き嫌いみたいな判定になってくるわけですが、最終は客観性をいかにうまく説明していただけるかという、そこに尽きると思います。</p> <p>今後そういう観点で見ていただくのもありかなと思いますし、よろしくをお願いします。</p>
今宿教育長	<p>客観性というのは非常に大事なものがありますので、公平性ととも、評価項目をきちんと吟味して、その観点で考えていただくということや、指導者としての扱いやすさ、文字や写真の配置についてのご意見が多くありました。</p> <p>また、書き込みや手引きがやたら多い教科書もありますが、かえってそういうものが、指導を活かしきれないということもあります。また、ノートの扱いについては十分工夫していくというご意見がたくさん出たところです。</p> <p>ありがとうございます。それでは、小学校の道徳といたしまして、日本文教出版を選定させていただきましたが、採択させていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>承認いただける方は挙手をお願いしたいと思います。</p> <p>(全員挙手)</p>
今宿教育長	<p>それでは、異議なしと認めさせていただきます、「議第1号 平成30年度使用小・中学校特別支援学級教科用図書および小学校(特別の教科 道徳)教科用図書の採択について」は、提案どおり承認することといたします。</p> <p>次に「議第2号 日野町立日野中学校グラウンド改修工事について」を議題とします。事務局から提案説明を願います。</p>
高橋次長	<p>(提案説明)</p>

今宿教育長	<p>日野中学校グラウンドの改修工事について提案説明させていただきましたが、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。</p>
高橋委員	<p>日野中学校にかかわりがあった者にしましては、非常にありがたい、嬉しいことでございます。</p> <p>新校舎の建設、続いて給食の実施、最終的にグラウンドの問題が残されておりまして、今こういう形で図面があるわけですが、ちょっと教えてほしいのですが、野球のバッターボックスから校舎棟までの距離が80mなんですけれど、肩が非常に強い選手、あるいは試合でホームランを打つような子がいた場合に、校舎棟の窓ガラスが割れる、80m以上飛ばす子がいる事への対応と、グラウンドの排水については、暗渠排水というような方式ではないのですね。</p>
高橋次長	<p>1点目について、中学校やPTAとも協議をしてきた中で、野球のバックネットを少しでも南側へずらそうという考えもあったのですが、そこをずらしたところで数メートルも変わらないくらいの話なので、バックネットを更新することにお金をかけず、排水対策とテニスコートの方に配慮する議論になっております。校舎棟まで届くという可能性も考えられないことはないと思います。ですが、こういう形でグラウンド配置を取る以上、場所はここしかないなということでございました。</p> <p>排水ですけれども、溝を何本か掘ってするような方法、全面的に砕石を敷いて、その上に真砂土を敷いているというやり方にするのか、いろいろあると思うのですが、計画していますのは、全面的に30cmの大きな砕石を敷いて、その上に10cmの真砂土を敷くということで、水の浸透、排水対策で行います。</p> <p>それともう1つは、グラウンドについては1%の勾配を取って、表面排水もします。ただ、テニスコートだけは基準からいきますと0.5%くらいの勾配でないと適さないんで、テニスコートについては0.5%の勾配にします。</p>
高橋委員	<p>現状の日野中のグラウンドは、東か西か、どちらかが傾いているのですね。全くの平坦ではないので、当時の話ですけど、例えば体育祭をする時とか、綱引きなど、どちらかがいつも勝つのですね。その辺も配慮していただけたらと思います。</p>
高橋次長	<p>今度の設計の勾配の断面図、真ん中が盛り上がって、そこから四方に流れていくという形で1%勾配と思っています。グラウンドのちょうど真ん中が山の背みたいになって、1%勾配というのは見てもなかなかわからないですけど、そういう形です。今、どちらかに傾いているというのが自然になったものなのか、当初からそういう設計だったのか、わからないのですが、おっしゃっているのは西側だと思うのですが、今度</p>

	<p>はそこをテニスコートとしますので、そこは0.5%勾配というふうに設計しています。</p>
高橋委員	<p>可能であれば、以前から日野中で野球の試合をすることができなかったのですね。1点の理由は、80mということになかなか厳しいということもあったのですが、マウンド辺りから土の問題があります。この際、野球のできる場所は黒い土を入れていただくと、PTAの方々、また中学生も非常に喜んでくれるのではないかと考えております。</p>
高橋次長	<p>2年ぐらい前から中学校やPTA、教科を教えられる先生方とクラブを担当される先生方、すべての先生方でいろいろ案を作っていたところでございます。そういう中で、野球場についてはこういう半円形の野球場になっていますが、重なってサッカーコートと、陸上トラックを、全部配置していくということになりますので、なかなか専用のコートだけというのは整備できない状況です。こういう事情は致し方ないかと思っておりますので、それぞれの教科を教えられる方、部活を教えられる方が、最終的に調整した案がこの学校で承認された案かと思っております。</p> <p>それぞれの種目だけを見ると、もう少しこうしてほしいというご意見はいろいろあるのですけれど、現状のところそういう意見で中学校の方とも協議が整ったということで、ご理解いただければと思います。</p> <p>落札額が決まりまして少し差額が出ましたので、それはまた可能などころについては施工の中で協議できるところについて、対応していきたいと思っております。</p>
高橋委員	<p>グラウンド西側の、花壇ブロックを撤去するわけですね。いいことだと思います。</p>
高橋次長	<p>花壇は全部撤去して、すべて道路のところまではテニスコートと同じ断面でいって、道から少し急に上がりますけれど、擁壁をつくることとなります。その中に6mの防球ネットを張る、そういう形になります。</p>
今宿教育長	<p>ほかにございますか。なければ、異議ございませんでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
今宿教育長	<p>それでは、異議がないと認めまして、「議第2号 日野町立日野中学校グラウンド改修工事について」を提案どおり承認することといたします。</p> <p>次に、「議第3号 日野町立日野小学校給食室厨房設備機器について」を議題とします。事務局から提案説明を願います。</p>
高橋次長	<p>(提案説明)</p>

今宿教育長

ただ今の提案説明について、ご質問ご意見はございますか。

ご意見ご質問がないようですので、「議第3号 日野町立日野小学校給食室厨房設備機器について」を提案どおり承認することといたします。

それでは、日程3に戻ります。

日程第3の前の議事録の報告についてですが、お手元に配布の議事録のとおりであり、委員各位においてご覧いただき、異なるところがあれば事務局までご連絡をお願いします。

続きまして、日程4の経過報告に移ります。まず、私から主な経過を報告させていただきます。

8月の事業でございますが、夏休みに全6回チャレンジ教室を開催いたしました。今年は50名を超える参加でございまして、ありがたいと思っています。

内容としましては、宿題の夏休みドリルなどに取り組んでいる子が多かったのですが、今年は地域未来塾という事業の中で取り組みましたので、町の子どもたちの学力をしっかりとつける、底上げをするという点では、今後さらに工夫が必要であると考えております。

また、中学生につきましては、福祉と連携をしまして少年センターが中心となって進めていただいているところです。今後の方向性をしっかり持って進めていきたいと感じているところでございます。

8月8日・9日でございまして、昨年、日野町から韓国の恩山中学校を訪問しましたが、今年は恩山中学校から生徒が12名と引率の教員3名の訪問がございました。8日には日野町国際親善協会と交流をされ、9日は日野中学校の生徒と交流をいたしました。夏休み期間でございましたが、生徒会、音楽部、それから夏休み中に部活の練習をしている子どもたちと交流していただき、給食を一緒に食していただきましたが、感想として、日野中学校の子どもたちの表情がとても明るいと言っていました。

それから、日本と韓国の教育事情が違うということも聞かせてもらったのですが、校舎が美しいということで褒めていただきました。パソコンや図書室の備品なども充実しているとも言っていました。

また、掃除や給食の配膳を子どもたちの手でしていることに、業者がするものであると大変驚かれていたことと、給食で、「いただきます」「ごちそうさま」を生徒たちが声を揃えて言うことにも関心されていました。先に食べ始められた人もいて、これは日本独自のことなのかなと、いろいろ違いなどを出し合いながら楽しく過ごしました。

言葉そのものは、通訳の方が入っていただかないと通じないところもありますけれども、身振り手振りで、子どもたちは本当に上手に、スマホの翻訳機能なども使って会話をしていたと思います。人と人との間に国境はない、こういう経験が必要だと感じました。

8月1日に戻りますが、ふれあい学習会には「お母さんは命がけであなたを産みました」という演題で講演会を開催しました。命がけで産んだか

	<p>らには、命がけで育てようという強いメッセージをいただいたのと、この講師の方は、食の安全に対して大変危機感を持っておられるので、その方面のお話が膨らんだと思います。その大切さを学ばせていただきました。</p> <p>8月4日には、町の結核対策委員会を開催し、町内の校医の先生や、東近江保健所の所長にも出席いただき、特にブラジルなどの高蔓延国からの居住歴のある児童が今年は2名いますので、その子の心身の健康についてなど協議をしました。</p> <p>8月7日に臨時議会がございまして、主には山本地区の道路の工事の件について開発することを承認していただきました。</p> <p>教科書の採択委員会は8月17日に行いました。石岡職務代理者さんと町のPTA連協の奥田会長さんに出席していただきました。</p> <p>昨日は、教職員のネットワークミーティングとして、町内の全教職員の夏季の研修会を行いました。今年度は県教委の指導主事を講師に迎え、次年度からの道徳の進め方について学ばせていただき、その後、それぞれテーマに分かれて研修をしていただきました。ほとんどの先生方に参加いただいた貴重な機会だと思いますし、教職員の資質向上を目指すものとして大切にしていきたいという思いでございまして。以上報告いたします。</p> <p>続きまして、日程4の経過報告について、学校教育課から順次説明を願います。</p>
<p>野瀬参事 宇田課長 日永課長 高浪館長</p>	<p>各課から説明</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>経過報告についてご質問などございませんか。</p>
<p>石岡委員</p>	<p>教職員のネットワークミーティング研修していただいたことなんですけど、以前から言っている「チーム日野」の意識について、教育長以下、教職員の皆さんが日野町に帰属しているという意識、共にそうして日野の子どもを教えるという意識づけが、教育長以下の言葉に果たしてなっているのか。</p> <p>また教員同士のつながりについて、新卒から来ていただいた方も先生ですし、年齢を重ねられたベテランの方も先生ですし、そういう先生方の人のつながりなどを背景にしたチームとしての状態は今どうなっているか、伺います。</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>日野町は、集まって顔が見える関係性があり、そういう良さを生かしています。合同研というのは保幼こども園・小・中・高の教職員が年に3回研修会を行います。どちらかというと合同研は、自主的な集まりですけれども、それとは別に、教育委員会の主導のもとで、2～3年前に立ち上げ</p>

石岡委員	<p>させていただいたのがネットワークミーティングでございます。</p> <p>それにつきましては、1年生同士の教職員が顔を合わせるとか、同じ教科、例えば国語主任の先生が小学校から中学校まで集まり部会を持ちます。自分たちの町にどういう先生がおられるのか、同じ学年同士で各校では、どんなことをしているのか、また教科ごとにつながりができますので、大いにメリットがあると思います。</p> <p>その都度、日野の子どもと一緒にしっかりと育てていくことをお願いしてきているわけですが、今年については、その中でも、これから力を入れていかなければならない課題となるテーマを決めて、そこにそれぞれの先生方に所属していただいて、講師を招いたり、ご意見を聞くなどして、課題別・テーマ別の研究会に、少しずつ発展し、形を変えてきています。何と言っても顔の見える関係性を他校の先生方とも築いていき、子どもたちの情報を共有しながら、目的や課題をしっかり共有することを大切にしています。</p> <p>あわせて、これはレクレーションですけども、秋には教職員のビーチボール大会を開催させてもらっています。自由参加ですが、年々参加の先生が増えてきています。そういうことを通しながらも連携・連帯感を強めていけるようにと思っています。</p> <p>特に学校に町内出身の先生がおられた方がいいのではないかというご意見もありますが、人事については計画的にしていくということが必要ですけども、他市町在住であってもその学校に愛着も持ち、地域とつながり、兄弟関係や親子関係などもしっかり把握しているような、長年勤務していただいている教職員が、一定何人か学校の中にはいてもらい、その先生を核にしなが、網の目のようにつながっていくというような構想を思っております。</p> <p>多様化・複雑化し、種々な課題が学校に集中するという状況があり、1人の先生が1つの課題に対応するというのは難しい状況になっていますので、まずは学校内で、チーム学校で、組織でしっかりと課題に対応していくということと、そして町内の学校間では、目指す方向をしっかりと共有し、関係機関と結びつきながら、町としての教育の方向性を示していくことが大切であると思っています。</p> <p>なぜわざわざこういうことを聞くかということ、私は今日が最後ということもありますし、もう1回これを確認したかったのと、授業状態などをのぞかせてもらいますと、ICTが進んでないなという感想がありますし、ああいう技術は新たに降って沸いたような技術ですし、お互い教え合って切磋琢磨しながらでないと使いこなしていけないのかと思います。</p> <p>ほかの市等に聞いていると、かなり進んでいるところもありますし、そういう意味では日野はまだのんびりしているのではないかという感想がございますし、またよろしく申し上げます。</p>
------	---

野瀬参事	<p>教育長がおっしゃいましたように、ネットワークミーティングですとなかなか突っ込んだところまでしにくいところがありますので、今回は教育長の示された平成29年度の重点を実現するという思いで、教育委員会が入りまして各校長先生に推進をお願いしてさせていただいております。</p> <p>昨日のことなんですが、ICTにつきましては、ICT推進委員会の先生がその講座を持っておられます。そのためにどういう講座をしようということで話し合っていたり、デジタル教科書を選定していただいたりして、ICT推進委員の方でも、すごく実践されている方、まだこれから実践を積み重ねられる方、いろいろいらっしゃいますので、自分たちの中で切磋琢磨しつつ、その方々が講師になって指導していただくこととしております。今、速報ですけれども、林課長補佐の方で数値を出しましたところ、「学ぶ力向上推進委員会」は、昨年1年間福井県に研修に行かれた吉村先生の話聞いてもらって、学ぶ力についてどうやって高めていこうかという話をしたり、自分たちが講師兼参加者になっているということで、評価としては4段階評価の3.5～3.9までいただいております。なかなか研修で、「やらされている研修」ではそこまで高い評価を得ることは、教育委員会の主催のものでは難しいのですが、自分たちの実践を発表し、各部会そこに集まってきてくださった20人そこそこですけれども、その方と実践交流することによって、ちょっとずつ自分たちの指導が力量を高めようという気運は高まっているかと思えます。</p> <p>道徳教育推進委員会も自分たちで指導案をつくったり、外国語活動推進委員会も小林先生やネイティブの指導員などが講師になって授業したりしています。同じ課題、興味関心を持っている者が集まっていますので、高い評価を得る。講師兼自分たちがやることによって刺激を得て2学期につながっていくのではないかと考えております。</p> <p>もう1点は、SSWやスクールカウンセラー、教育相談センターの赤尾専門員や室長、子ども支援課、少年センターの所長などに参加していただき、1つの事例に対していろいろな方面から話し合っ、学校にどういうアプローチをしていこうかということも考えていただいております。これも1つの「チーム日野」の姿ではないかと考えております。</p> <p>まだまだのところもありますけれども、学校だけのチームではなく日野町全体の視点で動いていけるような感じをつくっていきたいと考えておりますので、またご支援いただきたいと思えます。よろしく願いいたします。</p>
西村委員	<p>今のお話に関連するかもわかりませんが、2つ質問をさせていただきます。</p> <p>1つは、かねて問題がございました中学校、その後どんな様子なのかお尋ねします。と申しますのは、26日に中学校の教育後援会の主催で「夕涼みコンサート」ということで、吹奏楽部と音楽部による発表会を開いていただくとのことですので、私は今年も寄せてもらおうかと思っております。</p>



	<p>すが、その辺、その後落ち着いた状態なのかというのが第1点です。</p> <p>第2点は、小学校で確か不登校で、お困りの案件がございましたね。その後どんな具合なのか。詳しい話は結構ですので、大まかなところをお聞かせいただきたいと思います。その2点でございます。</p> <p>中学校のことに关しましては、ご配慮いただきまして、ありがとうございます。この前も教育長とともに、恩山中学校が訪問された時にも寄せていただいたのですが、吹奏楽も個別練習をしたり、非常に熱心にスタートを切ってくださいしています。また恩山中学校を迎えるために音楽部が合唱を披露するという形で、非常に良い雰囲気です。恩山中学校を迎えていただきました。</p> <p>ご心配いただいております不登校の2人ですが、Aさんについては通常どおり学級に入って、頑張ってお勉強を受けていただいております。</p> <p>もう1人のBさんにつきましては、なかなか行けない状況がありまして、おうちの方も学校がどういう配慮をしてくれるのかというようなことや、学校に対するご要望、またなかなかうまく進んでいかないことに対するご不満等も教育委員会並びに中学校等にもお話しいただきました。前向きに子どものことを中心に、すっきりとはしないけれども、前向きに頑張っていくというところで、おうちの方の一定のご理解を得たところです。</p> <p>2点目の不登校、Cさんにつきましては、学校もアプローチを引き続きしていただいているとともに、先ほど言いましたスクールソーシャルワーカーが主担当として関わっていただいております。ご家族の中でCさんは大切に育てられていて、学校には行ってないのだけでも、その中である程度満足度の高い生活をしておられるので、なかなかすぐに学校へ行かさないといけないというふうな雰囲気にならないところではあります。前もお話させてもらったかと思いますが、学校子ども支援連絡協議会というのは、いじめ対策問題協議会として持っている中で一度、話をさせていただいて、専門家の方々にご検討いただいた結果、現在のところはあまり登校刺激を与えるというのではなく、非常に緩やかな形でアプローチをしていこうという結論をいただいておりますので、その方向で、心に留めつつ、また目を向けつつ、あまり強制せずに見守っていこうという状況です。ただ、西村委員がご心配いただいておりますように、登校については学校から足が遠のいているというところでございます。</p>
野瀬参事	<p>中学校のことに关しましては、ご配慮いただきまして、ありがとうございます。この前も教育長とともに、恩山中学校が訪問された時にも寄せていただいたのですが、吹奏楽も個別練習をしたり、非常に熱心にスタートを切ってくださいしています。また恩山中学校を迎えるために音楽部が合唱を披露するという形で、非常に良い雰囲気です。恩山中学校を迎えていただきました。</p>
西村委員	<p>どうもありがとうございました。</p>
今宿教育長	<p>中学校の件に関しては、前向きに解決していただいております。部活動も学校全体としてよく頑張ってくれていると感じますし、音楽部、吹奏楽部も成績が良かったです。</p> <p>日野中学校というのは全小学校から進学しますので、小学校の今の6年生の様子などにも気を配り、今からいろいろな小学校の子どもたちの状況を把</p>

	<p>握し、中学校として大事にしている価値観を伝えたりして、小学校の教員と中学校の教員とでしっかりと協議をしていこうという思いを持っていただいておりますので、教育委員会としましては、その間に入りながら、調整していきたいと思います。</p>
今宿教育長	<p>他にご意見等はありませんか。</p> <p>それでは、次に日程6の今後の予定等について、学校教育課から順次説明を願います。</p>
野瀬参事 宇田課長 日永課長 高浪館長	<p>各課から説明</p>
今宿教育長	<p>今後の予定についてご質問などございませんか。</p> <p>無いようですので、次回の教育委員会の日程に移ります。</p> <p>9月度の定例会についてですが、9月は定例町議会が開催されること、また9月27日と28日には、研修を予定していることから、日程調整が難しい状況となっています。ついては、10月1日付けで新教育委員さんが就任されることにより臨時会の開催をすることが必要となることから、これを臨時会ではなく、9月度の定例会として開催してはどうかと考えます。日時は、10月2日（月）午後2時から開催ということで、ご都合はいかがでしょうか。</p> <p>それでは、ご都合が良いようですので、次回は10月2日（月）の午後2時から定例会を開催する予定とします。</p>
今宿教育長	<p>次に日程7の その他に移ります。</p> <p>新教育委員会委員の任命について説明を教育次長からお願いします。</p>
高橋次長	<p>新教育委員会委員の任命について</p>
今宿教育長	<p>次に平成30年度の幼稚園・保育園・認定こども園の募集についての説明を子ども支援課長からお願いします。</p>
宇田課長	<p>平成30年度の幼稚園・保育園・認定こども園の募集について</p>
山田委員	<p>今度3歳児になられる方、皆さんに面接されるとおっしゃいました。その中で、幼稚園はどうかという声掛けをされたりとかもあるのですか。</p>
宇田課長	<p>今年度から、子ども支援課で一体的に募集も受け付けるということで、応募の用紙につきましても1冊の中に、幼稚園・子ども園・保育園という</p>

	<p>ふうに全部入れるようにしました。と言いますのは、今、保育園の募集の要綱をもらった方に、必佐幼稚園の預かりだと言っても何もないので、なかなか説明がつかないので、どれでも選べるような状況にすることで、幼稚園の選択についても行ってもらえたらと思います。</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>いろいろなニーズがあり、フルタイムで就業されている方の長時間預かりと、ちょっと時間の延長をお願いできたらと思っておられる方など、多様な要望があります。幼稚園と幼稚園の預かり、保育園、子ども園でうまく役割を果たしていき、特に施設を増設するということなく、しかも待機児童を出さないということがどれだけできるかが課題です。</p>
<p>山田委員</p>	<p>必佐と日野だけ預かり保育をすることになるのですよね。そうしたら、桜谷と南比都佐と西大路の子たちは、預かり保育を受けることはできないのですか。</p>
<p>宇田課長</p>	<p>そうです。</p>
<p>山田委員</p>	<p>日野と必佐の子だけが預かり保育ができる。残りの3地区の方は保育園に行くしかないということですね。</p>
<p>高橋次長</p>	<p>桜谷は子ども園なので、長時部もありますので、長時部の方に入ってくださいたら保育時間が長いです。南比都佐と西大路はありません。</p>
<p>宇田課長</p>	<p>全体の流れとしては保育園の方にずっと流れてきているので、これから子どもの数がどう変わってくるのか、この少ない人数でいくなら、今の保育園で十分賄える状況なので、これから子どもがまだ増えるということだと、いろいろなまた方法を、今の既存の幼稚園舎を有効に活用することも考えていかなければいけないと思っています。</p>
<p>石岡委員</p>	<p>どこかの幼稚園を1つ全て保育園に変えたら解決するような、そういうことではないのですか。</p>
<p>宇田課長</p>	<p>鎌掛分園は3歳児を預かっていたところを保育園に変えたので、可能と言えば可能ですけれど、しかし幼稚園は幼稚園の良さみたいなものがあって、幼稚園のファンは根強くおられるのと、なかなか幼稚園については地域の幼稚園という意識を強く持っていていただいていますので、親御さんや地域からそういう声が出てくると可能かと思えます。</p>
<p>石岡委員</p>	<p>そういうことは、町長にも言っていたのですが、いずれは子どもが少なくなった地域というのはどうにか手当てを最後はしていかないといけないので、地域の人のコンセンサスというのもあまりこだわりすぎると、か</p>

宇田課長	<p>えって子どもには環境がよくないし、そういうことも見据えてほしいと思います。</p> <p>子どもにとって適正な集団ということは、口が酸っぱくなるほど聞かせてもらってしまして、その辺との兼ね合いというのは本当に難しい問題で、これからも考えていきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
石岡委員	<p>ゴールに日野中学校が、1つの中学校としてありますし、小学校は分かれてもいいし、1つの幼稚園という考え方もあっていいのではないかと、今後また検討してほしいと思います。1つのどでかい認定子ども園とか。東近江市では認定子ども園化されてますよね。</p>
宇田課長	<p>年齢幅でいくと6学年になるので、1,000人くらいになるので、ちょっとそこまでは難しいのですが、3か所程度くらいですと効率的にはいいのかなと。そうなる先生の数も2割くらいは減るのかなという感じはしますね。効率化と子育てのきめ細やかさとの兼ね合いというのもありますし。</p>
石岡委員	<p>財務省や文科省も指導しているように、人を減らせというのは多分出てくると思うので、手を付けていかなければならない課題ではないかなと思います。</p>
宇田課長	<p>ありがとうございます。</p>
西村委員	<p>重ねて同じような意見を申し上げて恐縮なんですけど、この前の西大路幼稚園の3歳児保育の実施は、地域の強い希望があって、それを取り入れていかなければならないという、現実的な対応を行って、地元の要望が実現されたことは良かったと思います。しかし、この決断が長期的に見て果たしてどうだろうかという面が、うまくかみ合うといいのですが、どうしても目先というか、たちまちのという部分で長期的な見通しは棚上げして、目の前の課題の解決を図っていく、そういう方向で現在は進んでおりますね。</p> <p>遠い先の話をなかなかしづらい面はあるけれども、たちまちの部分を決済していくことと、長期的観点に立ったうえでの姿がどう描けるのかという、そこらあたり絶えずみんなが議論していかなければいけないのではないかなという思いを強くしますね。特にこのように、もう現実の問題としまして、保育園へのニーズが非常に高まっておりますから、子どもさんが年間140人の出生レベルが将来どうなるかわからないにしても、やはり全体としては幼稚園に比べて保育園の方に保護者の方の要望は強くなると思いますので、その辺は町としてもそれなりにプラン立て、叩き台のようなものを出されてもいいのではないかと思います。あまり早まりすぎると</p>

正木参事	<p>またいろいろと誤解を招きますけれども、内々にそうしたこともお考えいただく必要があるのかという気がします。</p> <p>(運動会ご臨席について) (教育委員研修について)</p>
今宿教育長	<p>他にございませんでしょうか。</p> <p>それでは、最後になりましたが、石岡委員さんにつきまして在任中の教育委員会の定例会としては今回が最後となりますので、一言ご挨拶をいただきたいと思います。</p>
石岡委員	<p>(退任ご挨拶)</p>
今宿教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上を持ちまして、定例会を終了します。</p>